

養育院の周年史 その3

宮本孝一 老年学情報センター



櫻園通信 81 令和5年2月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

100周年 1972(昭和47)年

記念式典開催。1974年『養育院百年史』刊行。新付属病院と老人総合研究所を開設。
高度経済成長期が1973(昭和48)年のオイルショックまで続く。

5つの周年史④ 養育院百年史



1974(昭和49)年発行 東京都養育院編。一番ヶ瀬康子教授(日本女子大学)が編集責任者となり、日本女子大学、東北福祉大学、仏教大学、淑徳短期大学、明治学院大学の研究者と大学院生が執筆した。当初は本文3,000枚+資料の全3巻として作業が進められていたが、インフレによる印刷費高騰などの理由で最終的に本文1,200枚全1巻に縮小された。掲載資料は大幅にカットせざるを得なかったという。

最終章(第9編 画期的な飛躍)では、高齢者医療・福祉・知的障害者福祉に特化した養育院事業が高度経済成長期に拡大する様子が語られる。この最終章だけは日付が書かれない記述が散見され、養育院事業全体でどんなことが同時並行で起きていたかが見えないという難点がある

巻末の折込ページ「東京都養育院の百年の歩み」は、養育院と諸施設の設置や改組の全体像が見られる便利な図になっている。

第一回今和次郎賞受賞。



110周年 1982(昭和57)年

記念式典・記念刊行物なし。老人総合研究所創立10周年記念式典。70年代から80年代初頭は、オイルショックによる不況で都の財政悪化。

120周年 1992(平成4)年

記念式典開催。1995年『養育院百二十年史』刊行。

伊豆山老人ホーム40周年記念式典。

空前の好景気(バブル経済)の中、諸施設の拡充計画が策定される。

しかし1991年バブル崩壊。



5つの周年史⑤ 養育院百二十年史

1995(平成7)年発行 東京都養育院編。

養育院職員を中心とした編集委員会により約2年の編纂で刊行された。『養育院百年史』以後の20年間を中心に記述されている。その20年の間には、オイルショックがもたらした都の財政難による事業の縮小があり、逆に1981年(昭和56)年からの財政改善期では施設の整備・拡充が進められた。財政改善期では、高齢化社会の到来に備えて医療・福祉施設の充実が図られ、老人性痴呆(認知症)の総合的な研究が始められている。

1991(平成3)年のバブル崩壊で長期不況が始まったが、養育院事業への影響は本書ではほとんどみられない。80年代に引き続いて施設の整備・拡張計画の記述が多い。



130周年 2002(平成14)年

記念式典・記念刊行物なし。1997(平成9)年**養育院廃止**。高齢者施策推進室設置。東京都老人医療センター創立30周年記念式典。30周年記念誌刊行。経済低迷が長期化する中、都の福祉・医療の制度改革が次々策定される。

140周年 2012年(平成24)

記念式典・記念刊行物なし。2009(平成21)年 東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所を統合して地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターが発足。都立老人ホームの民営化や廃止が進む。

150周年 2022(令和4年)



2023(令和5)年2月 記念行事(講演会)、祝賀会開催。『東京都健康長寿医療センター 病院,研究所開設50年・養育院創立150年記念誌』DVD版刊行(発行 東京都健康長寿医療センター)。